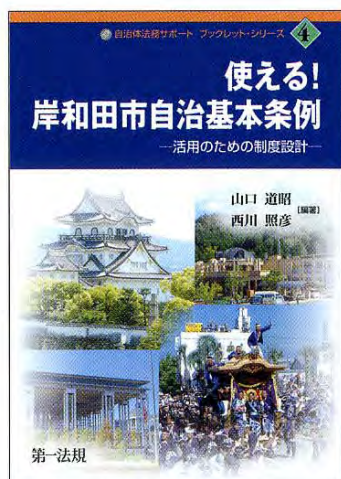




自治体法務サポート ブックレット・シリーズ

4

使える! 岸和田市自治基本条例

—活用のための制度設計—

山口 道昭／西川 照彦 編著

●A5判・128頁・定価1,470円(本体1,400円)

自治基本条例を使いこなすためには

今、自治基本条例が注目を集めている。そして、この注目の視点は、条例の内容とともに制定過程にあるように思われる。

自治基本条例は、ともすれば理念条例になりがちであるので、条例が制定されるだけではこの実効性が定かではない。

そこで、実効性を確保するために、

制定過程において市民の徹底的な参画を指向することが最近の傾向であるように思われる。

また、事後的に自治基本条例の規定を具体的に補完する条例の制定も要求されよう。

自治基本条例は、このような制定過程と事後の措置を得ることで、制定後、地域に根ざし、実効性を有することになると考えられる。

そして、まさにこういった過程を経て制定され、2004年12月10日に公布された岸和田市自治基本条例は、他の自治体の条例づくりの良い参考になるものと思われる。(「はじめに」より抜粋)

本書の特色

自治基本条例策定の参考書として

岸和田市における自治基本条例の策定の経緯や考え方について詳細に解説しました。

条例制定後の実効性の確保に向けた取組みを紹介

自治基本条例制定に伴い、条例の理念を具体化するための取組みや構築した制度について紹介しています。

多彩な執筆陣

条例制定にかかわった職員や学識経験者に加え、策定委員会に参加した市民が職員と同様の立場で執筆しています。



本書の内容〈目次抜粋〉

はじめに

第1章 自治基本条例と条例制定に向けた体制整備

1 自治基本条例と市民参画・協働

- 1 自治基本条例の位置付け
- 2 自治基本条例の特徴
- 3 岸和田市条例の特徴
- 4 制定過程の「協働」

2 岸和田市にとっての自治基本条例

- 1 地区市民協議会の30年
- 2 都市計画マスタープランの策定
- 3 「市民と共に考える」まちづくり・ざいせい岸和田委員会の取組み
- 4 これまでの提言・提案
- 5 第3次総合計画と首長選挙

3 自治基本条例策定に向けた庁内体制

- 1 担当スタッフの発足～目指すべきものの議論～
- 2 策定方法の検討～実現に向けた方法論～
- 3 共同事務局としての取組み～始動に向けて～
- 4 公募の実施と反応～生みの苦しみ～

第2章 条例制定過程

1 自治基本条例の策定過程

- 1 策定委員会の構成
- 2 小委員会の発足～市民委員の議論の場として～
- 3 小委員会を受けての策定委員会
- 4 事務局の役割

2 条例策定委員会における市民委員、学識経験者委員の役割

- 1 はじめに
- 2 策定過程における議論の概要
- 3 合意形成過程と市民委員の役割
- 4 合意形成過程における学識経験者委員の関与

3 自治基本条例案策定と市民間合意

- 1 市民委員の参加の動機と基本条例への思い入れ
- 2 章立て試案から条文原案の策定（2003年5月～2004年2月）
- 3 条例素案の策定（2004年3月～7月）

4 自治基本条例策定と行政案・可決条例

- 1 素案の周知と市民等の意見・指摘
- 2 素案精査チームの作業と小委員会の議論
- 3 策定委員会としての条例案の決定
- 4 市の条例案と条例整備チームの発足
- 5 岸和田市自治基本条例可決
- 6 市民委員としての感想

5 議員参画と議会審議

- 1 議員との意見のキャッチボール
- 2 議員からの問題提起

第3章 制定条例と今後の取組み

1 岸和田市自治基本条例の特徴的規定

- 1 条例名は「だんじり条例」？
- 2 市民と事業者の権利・責務の違い
- 3 コミュニティと地区市民協議会
- 4 外部の目による監査
- 5 法律は使いこなすもの
- 6 議会基本条例に期するもの
- 7 協働
- 8 総合計画との整合性

2 条例の実効性確保に向けた取組み

- 1 自治基本条例制定に伴う「条例整備チーム」の立上げ
- 2 条例整備チームを組織する基本的な考え方
- 3 条例整備チームの目的
- 4 条例整備チームの運営方法
- 5 条例整備のスケジュール
- 6 策定過程で議論となったポイント

資料編 岸和田市自治基本条例 逐条解説

■コラム

- ◇全国に誇る「岸和田の宝」がまたひとつ
- ◇自治基本条例づくりに携わって
- ◇市民が主体となってつくる私たちのまち
- ◇住みやすい環境づくりのために
- ◇市民参画について
- ◇お母さんは今夜もお出かけ